

愛媛大学図書館 企画展 2007

“一枚摺り”の世界

—相撲番付・芝居番付・長者番付—
～遠田家文書から～

資料展示

会 場 大学会館3階（303号室）
日 時 平成19年7月27日（金）～8月5日（日）
午前10時 ～ 午後5時 （土・日も開館）

講演・シンポジウム

会 場 総合情報メディアセンター1F メディアホール
日 時 平成19年7月29日（日）午後1時～3時30分

ご あ い さ つ

愛媛大学図書館長 伊藤 昌春

この度、『愛媛大学図書館企画展2007』としまして、「一枚摺り」の世界 - 相撲番付・芝居番付・長者番付 - ～遠田家文書から～」を開催することになりました。

“一枚摺り”(いちまいずり)とは、浮世絵や番付など一枚物の印刷物で、当時の伊予における情報発信を偲ばせる貴重な資料です。

今回、この“一枚摺り”について、江戸末期から明治期までの25点をとりあげて、講演・シンポジウムを開催し、皆様にご紹介させていただきます。

愛媛大学では、地域社会や産業界との連携や交流の推進を図っておりますが、図書館においても地域の開かれた文化拠点としてその役割を果たしていくことが益々重要になってきております。

この企画展を機に、愛媛県の豊かな文化に対する理解を深めていただければ、これに優る喜びはありません。

結びにあたりまして、本日、ご来場いただきました皆様に心より感謝するとともに、本学図書館への倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本企画展のために、ご尽力いただきました関係者各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成19年7月27日

遠田家文書について

内田九州男（法文学部）

遠田家文書は、平成 13 年の年末に近い頃、資料ネットへ遠田家より連絡があってその存在が明らかになったものである。翌 14 年 2 月全点が愛媛大学附属図書館に運び込まれ、その後整理と目録化作業が行われ、やがて同館寄託となったものである。

遠田家文書は、故亀井季太郎氏の収集にかかるもので、亀井氏ご息女が遠田家に嫁がれた関係で同家へ継承されたものである。総点数は 2000 点を超える膨大な文書群である。その内容は、三津町町方文書、大浦村庄屋文書など一群の地域史料が 400 点余、松山藩士丹羽家、同富田家などの家文書が約 1000 点、その外に、句集や一枚刷り等俳諧関係資料、和書・和本、番付等の摺物、近代書籍、写真帳、近代簿冊（愛媛県庁文書）、新聞号外など多岐に及んでいる。しかし、そのほとんどが伊予しかも中予南予関係のものであり、地元関係資料にこだわって収集されたものと推測されるが、そのことが今日では得難い魅力にもなっている。

明治前期 伊予の情報誌 『一枚摺り』の世界

福田安典（教育学部）

われわれの生活にはいま情報があふれていて、簡単にいろんな情報が手に入ります。しかしながら、ほんの少し前までは、頼るものは印刷物のみ。しかも分厚いものはいろんな意味で物入りなので、薄いものが求められました。その中で生まれたのが一枚の紙に必要な情報を詰め込んだ「一枚摺り」です。相撲番付をイメージしてもらえれば一番わかりやすいことと思います。上部に強く人気有る力士の名が記されて、柱や欄外に行司や出版社などの必要事項があり、末端の力士は、中央から下部にかけて、あるものは虫眼鏡で見ない限り読み取れないような細字で書かれています。こんな細字を使ってなんとかすべてを一枚の中に詰め込んでいるのです。

一枚摺りは、相撲に限らず、俳諧、演劇など多方面で、それぞれの形式で制作されていき、いつしか独特の文化というか、世界を築いていきました。やがて、学者や俳人などを番付の形で一覧にしたものとか、各地の名物や温泉などを番付にしたものが現れ、時には金持ちの番付などという実用なのか戯作なのか区別のつかない、やや悪ふざけに近い摺り物が作られるようになります。その流行は単に都市のみにはとどまらず、広く日本全体に広がっていきました。

愛媛大学図書館寄託「遠田家文書」には伊予で作成された「一枚摺り」や、伊予に持ち込まれた「一枚摺り」がまとまってあります。このたび、図書館では、それらの一枚摺りに特別展示品数点を加えた展覧会を企画しました。伊予の一枚摺りの世界を楽しんでみてください。

展示資料一覧

No.	資料名	大きさ (cm)
1	四方一覧(大日本諸国繁栄競、大日本物産大鑑、皇国神社仏閣競、日本山川見立相撲)	57 × 37
2	大日本分限者諸商売繁栄鑑	32 × 51
3	予州松山農商家繁栄鑑 明治十七年改正	48 × 67
4	愛媛貴位旭出鏡	50 × 70
5	回漕店並二諸問屋 伊予三津栄町 泉喜七郎	28 × 39
6	三府俳優大見立 極細吟調 明治十六年歳末の一月改正	39 × 99
7	三府総櫓俳優大見立 極細調 明治十八年酉一月改正	37 × 101
8	[役割番付]	27 × 40
9	[役割番付]	27 × 40
10	[役割番付]	27 × 40
11	(錦絵)伊予 朝夕太郎	40 × 28
12	[相撲番付]	48 × 34
13	[相撲番付]	37 × 50
14	[相撲番付]	38 × 50
15	讃州金比羅 予州興隆寺 両奉納四時混雑発句合	24 × 34
16	二名邑葛城宮奉納四時発句合	18 × 24
17	佐々連石通名録	34 × 45
18	伊予国和気温泉久米浮穴伊予郡 囲碁組合相撲	49 × 36
19	鎌倉惣凶江之島金沢遠景	45 × 60
20	京都大仏殿釈迦牟尼如来大像	39 × 26
21	銀閣寺林泉図	37 × 48
22	摂州住吉宮地全図	36 × 88
23	高野山独案内	67 × 37
24	播磨国加古川の駅常住寺廉児の松図	28 × 39
25	諸罰軽重一覧表	55 × 38

展示資料解説

神楽岡幼子（法文学部）

福田安典（教育学部）

見立番付

【1】四方一覧 三篇



見立番付とはテーマを決めて、そのランキングを一覧に示したもので、そのランキングや収集された対象物を見て楽しむものである。

『四方一覧』は「大日本諸国繁栄鑑」・「大日本物産大鑑」・「皇国神社仏閣鑑」・「日本山川見立相撲」の四種の見立番付を合わせたもので、日本各地の名物や名所を楽しむことができる。「明治十二年四月 日御届 編輯出版人 大阪西成郡西高津村 加藤富三郎 売捌処 大阪心齋橋塩町角 前田喜兵衛 心齋橋平ノ町西 前田喜次郎」。大阪で制作されたもの。見立番付は、大阪で制作されたものが最も多く、その中心となるのが地本屋と呼ばれる書肆で、この前川喜兵衛（綿屋喜兵衛）はその代

表。このような四点の見立番付を一枚に仕上げた「四方一覧」の形式は明治になって見られるもので、この他にも幾種類かの「四方一覧」が作成されている。（福田安典）

長者番付

【2】大日本分限者諸商売繁栄鑑



『大日本分限者諸商売繁栄鑑』は、『番付で読む江戸時代』には文久四年(1864)版と慶応三年(1867)版があるが、本展示品は、その記される人物名から、文久四年版と思われる。諸国の長者を見立番付にすることは、江戸後期から流行するが、早くから伊予の地にもたらされていたようである。（福田安典）

【3】予州松山農商家繁栄鑑



「明治十七年改正 明治十七年九月十日出版御届」、「久万住 久山庄次 明神 棟田七造 八方 牧野五平」、「編輯者並出版人 愛媛県温泉郡湊町四丁目七拾五番地ノ内式番屋敷 平民 橋本利吉」。松山の長者番付。ただし、長者番付というのは、必ずしも正確ではなく、町の評判といったレベルのランク付けであり、物故者が含まれる場合もある。

（福田安典）

【4】愛媛貴位旭出鏡



「明治廿七年四月吉日 全年全月全日出版 印刷兼発行人高田 五郎」。愛媛県の長者番付。先の『予州松山農商家繁栄鑑』と比べると、例えば前頭であった堀内新三（『源氏物語』研究で有名）が、行司の欄に記される。また、八幡浜、新居浜、宇和島などの人物が松山よりも高位である。（福田安典）

【5】（引き札）回漕店並二諸問屋 伊予三津栄町 泉喜七郎

*個人蔵



愛媛の番付にも名が記される泉喜七郎の引き札（宣伝用一枚摺り）。明治頃のものと思われる。ここに描かれる商家の有様から、かつての愛媛の賑わいと、長者番付に記される家々の規模がしのばれる。

（福田安典）

芝居

【6】三府俳優大見立 極細吟調



「明治十六歳末の一月改正 明治十五年第十月 日御届 同 同 日出版 編輯出版人兼ル 大阪府下南区心斎橋通二丁目九番地 芝居番附元 玉置清七板」。相撲番付見立てで、三都の歌舞伎役者のランキングを示したもの。「大関」や「小結」の位付け

の下に「千円」とか「八百円」とあるのは、役者のランクを給金で示したもののだが、給金は実際のものではなく、架空の設定である。（神楽岡幼子）

【7】三府総櫓俳優大見立 極細調



「明治十八年酉一月改正 校閲 大阪府西成郡高津村生玉真吉坂上ル 加藤富三郎 筆者 芳滝 明治十七年七月四日出版御届 同年八月 日刻成 南区塩町四丁目四番地 心斎橋筋塩町角 大阪 諸本団扇絵双紙類鬻出版人 前田喜兵衛」。相撲番付見立てで、

歌舞伎役者のランキングを示す。「三府」とあるが、三都の役者に名古屋の役者を加える。このような大見立ては人気があり、種々出版されたため、尚一層の愛顧を願う版元前田喜兵衛の声も左下方には記されている。（神楽岡幼子）

【8】役割番付



歌舞伎の役割番付。上演年次・劇場不明。演目は「花珊瑚宝入船」および「おしゆん伝兵卫」。一座の役者の名前は印刷されているが、演目やその役名は墨書で書き込まれている。いくつかの興行地を巡る地方番付によく見られる形式である。出演役者は中村駒之助、嵐栄三郎、尾上小卯三ら。一座の看板である中村駒之助は明治十年(1877)にも市川左団次らとともに大阪大歌舞伎の一座を組んで来松したことがある。その時の給金は八百両とも噂された。(神楽岡幼子)

【9】 役割番付



歌舞伎の役割番付。上演年次不明。上演劇場は古町の旭座。演目は「実録千両幟」、「鬼一法玄大倉卿」、「千曲川留吉」。出演役者は実川徳三郎、嵐鱗子、市川龍三郎ら。旭座は明治二十五年(1892)に開場し、明治二十八年(1895)には姿を消した劇場である。右下方に「明治廿年四月」とあるが、おそらくはその際に作成した番付を劇場名のみを変えて再利用したものであろう。「松山松前四日京堂」とあり、松前で作成されたことも知れる。(神楽岡幼子)

【10】役割番付



歌舞伎の役割番付。上演年次不明。上演劇場は古町の旭座。演目は「増山実録」。出演役者は実川徳三郎、嵐鱗子、市川龍三郎ら。【9】と同じ一座によるもので、印刷された役者名に墨書で配役を記し、演目を書き換えたもの。(神楽岡幼子)

相撲

【11】(錦絵)伊予 朝汐太郎

*個人蔵



「春斎筆 東京両国大平製」。初代朝汐。元治二年～大正九年(1865～1920)。八幡浜生まれ。明治十四年(1881)に大阪相撲押尾川部屋に入り、同二十三年(1890)に上京、高砂部屋に入り朝汐と名乗る。同二十六年(1893)に関脇、同三十一年(1898)に大関。同四十一年(1908)に引退、年寄佐野山を襲名。生涯記録は、百三十八勝七十六敗三十一引き分け。

(福田安典)

【12】相撲番付



「明治五年三月三日 於住吉町 晴天五日ノ間 興行仕候」とあるように、明治五年(1872)三月、住吉町にて行われた相撲興行の番付。縦長で左右に東の方と西の方を記すのは江戸の相撲番付の形式である。ちなみに東の大関は伊予の「宮城野重吉」、西の大関は讃州の「象関喜助」。大半が伊予の相撲取りであるが、大坂や紀州の相撲取りの名前も見える。版元は芝蘭亭。
(神楽岡幼子)

【13】相撲番付



「明治六年当七月吉日より 新 場所におゐて 晴天十日ノ間 勸進方角力興行仕候」とあるように、明治六年(1873)七月の相撲興行の番付。横長で上下に続くのは大坂の歌舞伎番付の形式。二枚組の内の一枚で「東の方」の一覧である。前頭筆頭には伊予の「時ツ浪佐吉」の名前が見えるほか、伊予の相撲取りの名前も散見する。
(神楽岡幼子)

【14】相撲番付



【13】とセットになるものと思われるが、二枚組の内の一枚で「西の方」の一覧である。大坂や兵庫、備中の相撲取りが並ぶ中、「荒瀬庄吉」や「早馬伸蔵」ら伊予の相撲取りの名前も見える。「大坂下寺町 板元長谷川万兵衛」とあり、大坂で印刷されたものであることがわかる。
(神楽岡幼子)

諸芸（俳諧・和歌・狂歌・囲碁）

【15】讃州金比羅 予州興隆寺 両奉納四時混雑発句合

* 個人蔵



俳諧の一枚摺りは多種多様である。本品は、俳諧の発句投句を呼びかけるもの。選者は「洛 梅室」、京都の桜井梅室(明和六年～嘉永五年(1769～1852))である。梅室は四国行脚をしたことがあり、伊予俳壇への影響は少なくない。伊予俳人が「御届処」に名を連ねていることも注目される。
(福田安典)

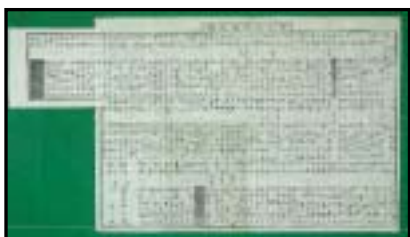
【16】二名邑葛城宮奉納四時発句合

*個人蔵



『讚州金比羅 予州興隆寺 両奉納四時混雑発句合』同様、奉納のための発句募集札。選者は「浪花 其日庵秋水」とあるが、未詳。江戸末から明治初期のものと思われる。
(福田安典)

【17】佐々連石通名録(さざれいしつうめいるく)



「さざれ石」は細かい石のことで、歌之部、詩ノ部、発句之部、画工之部、狂歌之部の諸芸に通じた人物をたとえたもの。「賀叟 鷹橋源兵衛、編者 同 源之助」。伊予では歌人・漢詩人・俳諧・狂歌に人名が記される。幕末から明治にかけてのものと思われる。
(福田安典)

【18】伊予国和気温泉久米浮穴伊予郡 囲碁組合相撲



「明治二十年八月改 禁売買」とある。「禁売買」は、見立て番付によく付される文句で、本当に売買を禁じていたのかどうかはわからない。実在の人名を、しかもランク付けして載せる際のこそくな予防策であったとも考えられている。本作も、その一つで、伊予における囲碁のランク表である。
(福田安典)

名所

【19】鎌倉惣図江之島金沢遠景



「戸川氏蔵板」。鎌倉の名所案内。鎌倉鶴ヶ岡八幡宮を中心に周辺の名所を描く。左下方には江之島、右上方には金沢の遠景が見える。右端には鎌倉の由来、江之島の由来、および、名勝地として名高い「金沢八景」を記し、鎌倉名所巡りの案内とする。
(神楽岡幼子)

【20】京都大仏殿釈迦牟尼如来大像



京都方広寺の釈迦牟尼如来大像を描き、上部には「御丈六丈九尺」に始まり、「御鼻長サ八尺五寸 横六尺五寸」、「御掌長サ二間一尺」等々、細かなサイズを記し、大仏の紹介とする。「天保十四癸卯九月」の年記が見える。天保十四年は1843年。
(神楽岡幼子)

【21】銀閣寺林泉図



「慶応戊辰仲夏写」とあり、慶応四年(1868)の刊行と知れる。古くから京都の名勝地として名高い銀閣寺を描く。画は梅嶺幸直豊。銀閣寺は義政の造営した東山殿がもととなり、江戸時代に入って「銀閣寺」の名で親しまれることになった。「京都 倉貫刀」とあるように、京都で刊行されたものである。
(神楽岡幼子)

【22】摂州住吉宮地全図



「再板 元治元甲子年仲夏」とあるように、元治元年(1864)の再板で、版本彫工は「堺烏丸堂鬼一郎」。左右に広がる画面に、住吉宮の全景を収める。住吉宮は古くから大坂の名所として知られており、『住吉名勝図会』や『摂津名所図絵』などにもその全景が紹介されている。

(神楽岡幼子)

【23】高野山独案内



高野山の案内。左下には「高野山大門より徒 鷺川寺迄六リ 根来寺迄八リ」等と道程の案内もあり、実用的な絵図であったことが知れる。

(神楽岡幼子)

【24】播磨国加古川の駅常住寺廉児の松図



現在の兵庫県加古川市にある常住寺にあった「加古の松」を紹介した一枚。『播州名所巡覧図絵』などにも描かれており、「高さ三丈貳尺 太さ三丈壹尺 東西貳十一間 南北十八間」というその立派な枝振りから、名松として知られていた。（神楽岡幼子）

近代社会の番付

【25】諸罰軽重一覧表



「一名 改正罰金早見出シ」、「明治十二年四月十二日御届 同 出版編輯兼出版人 大阪府平民華本安次郎 府下南区難波新地二番町二十三番地」。明治十二年(1879)では、民法や治罪法がまだ制定されていないが、明治八年(1875)には、この番付の東の最高位にある讒謗律が公布されている。この見立番付は、その近代の動きの中で、一般市民が新たな罪について早く情報を把握できる点からの需要があったと思われる。

（福田安典）

《参考文献》

- 林英夫・青木美智男編『番付で読む江戸時代』柏書房、2003年
荻田清著『上方板歌舞伎関係一枚摺考』清文堂出版、1999年
林英夫・芳賀登編『番付集成』（上下）柏書房、1973年

2007年7月

発行：愛媛大学図書館 社会連携 WG

